

1.診療科紹介（専攻医・後期研修医向け）

項目	内容
① 診療科名	リハビリテーション科
② 診療科の特徴	超急性期から在宅まで幅広くカバー
③ 診療科のモットー	多職種・多疾患の連携
④ 診療内容・実績 (2019年7月時点)	救命救急センターから一般病棟の入院患者さんの急性期リハビリテーションが主体です。外来リハビリテーションは必要に応じて行ないます。
⑤ 診療体制 (2019年7月時点)	指導医1、医長1の体制です。
⑥ 診療科カンファレンス	脳神経内科・脳神経外科・整形外科などへ参加
⑦ 経験できる疾患	脳神経・運動器・循環器関連
⑧ 経験できる技術・技能	リハビリテーション医学一般（小児を除く）
⑨ 学会について	日本リハビリテーション医学会認定施設
⑩ その他	当院は救命救急センター（ICU/HCU、ER）から一般病棟の幅広い疾患を経験できますが、回復期リハビリテーション病院、地域包括ケア病院とも連携しています。

2.専門研修プログラムに準拠しない形での採用の場合

項目	内容
① 取得可能な専門医	基本19領域以外の専門医
② その他	当院あるいは連携施設での研修

3.専門研修プログラムで採用の場合（内科・外科・眼科除く）

項目	内容
① 基幹施設	名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科
② 取得可能な専門医	リハビリテーション科専門医
③ その他	

4.指導責任者より専攻医・後期研修医へメッセージ

- ・高齢化の進行に伴い、リハビリテーション科のニーズは増加していますが、専門医数が絶対的に不足しています。特に、東京・名古屋・大阪などの大都市圏では今後は高齢者の大幅な増加により、リハビリテーション専門医の需要が増加します。疾患を理解して、理学療法士や作業療法士などに正確な指示を出し、結果を評価できる実力が求められています。
- ・リハビリテーション科は、緊急のコール等がなく、子育ての時間が必要であったり、QOLを求める医師には好適な職場環境と言えます。働き方を自己の人生観に応じて選択できます。
- ・ロボットやAIなどの活用が急速に進んでおり、研究や産学協同のすそ野が広がっています。
- ・アスリートや障害者のリハビリテーションの分野も拡大しています。